

### その3 広島大学とミシガン大学に見る 学生コレクティヴ比較

横堀 肇

#### 1. 老舗の街歩きグループ、テクテクの 西条訪問

最近、コレクティブ居住 (Collective dwelling) という住まい形態が注目されている。コ・デュエリング (Co-dwelling) とも呼ばれる。要は、家族以外の他人とおしが居間や台所などを共同利用しながら生活する。最近、と言っても紹介されてからもう10年以上になるだろう。筆者の友人でもある日本女子大学の小谷部先生が、北欧での事例を紹介したのが切っ掛けだ。

特に、1995年の阪神淡路地震以後に注目されるようになった。独居老人が亡くなったのに何ヶ月も発見されなかった事件が頻発したからである。居間や台所を共同利用するが、各人の個室も有る。個室にも、簡単な炊事設備を付ける。

北欧では、個人ではなく所帯が「コレクティブ居住」をする。そっちの方が普通かもしれない。炊事も当番で行なう。7世帯いれば、炊事は週一回ですむ。共働きなどの場合は、(うまく行っていれば) 合理的だ。

日本でも独居老人対策的なケースだけでなく、家族コレクティブの賃貸や分譲の住宅も試みられてきている。が必ずしも成功例ばかりではない。やはり他人同士の共同生活や共同炊事は難しい。親子だって、兄弟だって、あまり大きな声で言にくいのが、夫婦だって正直言って共同生活には多々障害がある。

北欧での話を聞いていると、日本人に比べて合理主義、個人主義であることで、うまくいっているのかなとも思われる。日本人は他人に気を使いすぎる。ドライではないから難しいのではないかなとも思われる。

神戸では県営住宅や市営住宅で、先導的にコレクティブ居住が実施された。毎日、炊事を交代で行う、とまではなかなかいかない。そこで、週一

回、一緒に食事をするとか、近隣のボランティア・グループが、通常は近隣の外部の人でも利用できる喫茶店のように利用する、など色々と工夫がなされている。

ところで、英語でコレクティブ・ハウジングというと、所謂「集合住宅」を指すはずであり、共同居住型住宅という意味にはならないと思う。が、小谷部先生によると、北欧での呼び方を、そのまま訳すと、「コレクティブ・ハイジング」となるそうだ。言葉は、意味が定着し、関係者が共通のイメージを持てば、それで成立する。「お茶する？」という言い方も、最初は変だと思ったが、今や筆者でも抵抗無く使える。

冒頭から話題がそれてしまい恐縮だが、インドネシア時代の似たような事例があった。インドネシア共和国の東端にイリアン・ジャヤという大きな島がある。東半分は、パプアニューギニアで、別の国だ。パプアに住んでいる人種はインドネシア側の人種とも同様の民族が住んでいる。

共に、かつては人食いの習慣もあった。また、かの有名なペニス・ケース (勿論男性、女性は腰ミノ) を着け、石器時代に近い生活をしている民族が、今でも住んでいる。いや、筆者がインドネシアに住んでいた時のことであるから、少なくとも1980年ごろには、原始的というか、石器時代的な生活を送っていた。

もう20年以上前になる。筆者が勤務していたインドネシア共和国、公共事業省の親しい友人が、イリアンジャヤに赴任した。

インドネシアの国家公務員も日本と同様に、概ね3-4年で地方の国の出先機関へ転勤する。その一環だ。勤務地はイリアンジャヤの首都、ジャヤプラ市である。ジャヤプラは海岸の都市で、文明の影響を受けている。内陸の集落のような原始的な生活環境ではない。おっと、原始的という言い方は、いまや差別的用語といわれるだろう。こ



ここで急遽、「素朴な生活」と言い換えさせて頂く。

内陸の町「ワメナ」では、当時はまだ「素朴な生活」が残っていた。紙幣やコインの貨幣経済で無く、貝殻が貨幣であった。一個の貝は、一日の労働分程度という。日本で一日のアルバイトと換算すれば、6-7千円であろうか。随分、高価な貝である。

しかし、ジャヤプラからワメナへの道は無い。飛行機でしか行けない。海岸にしか無い貝は、「金（キン）」とまではいかないが確かに貴重品であったろう。

ところが次第に、インドネシア経済の影響を受けるようになった。つまりインドネシア政府発行の紙幣「ルピア」が入ってきた。先ず100ルピア（当時のレートで約30円）が入った。ワメナの人々は、貨幣とは100ルピアと理解し、慣れてきた。そして「メラ」と呼んでいた。

メラとはインドネシア語で「赤い」という意味である。実際、この当時のインドネシア紙幣100ルピアは赤い色であった。

次第に筆者の友人のように中央の役人や観光客も、現地に入ってくるようになる。100ルピアのメラは次第に普及していった。ジャカルタをはじめ外部から来た人は、100ルピアのみでなく、10000ルピアや1万ルピアを持って来る。それを使おうとする。

しかし、現地の人は、メラ以外は受け取らない。つまり、赤い100ルピアしか、貨幣としての認識が流布していないのだ。先の話つながる。つまり皆が（言葉も、貨幣も）認識すれば、それが社会的意味をなす。そう言いたかった。因みに現在の為替レートでは、100ルピアは一円程度である。インドネシア通貨のインフレで、価値が30分の一になってしまった。

なお、この話は、1999年1月（その29）にペニス・ケースの話と一緒に取り上げている。興味のある方は参照して頂きたい。

コレクティブに話を戻そう。この5月に、テクテクと呼ばれる「街歩きグループ」が西条を訪れた。このグループは私も東京にいた時は、何回もお世話になった。東京周辺やかなり遠距離にも足を伸ばした。ワイフに言わせると、なんでいい年の大人が、徒党を組んで、街中を歩き回るのか。あちこちをテクテク歩き、狭い道や横道、古びた

建物を見て喜んでいる。「信じ難い趣味」だ。とても理解できない、と評論している。

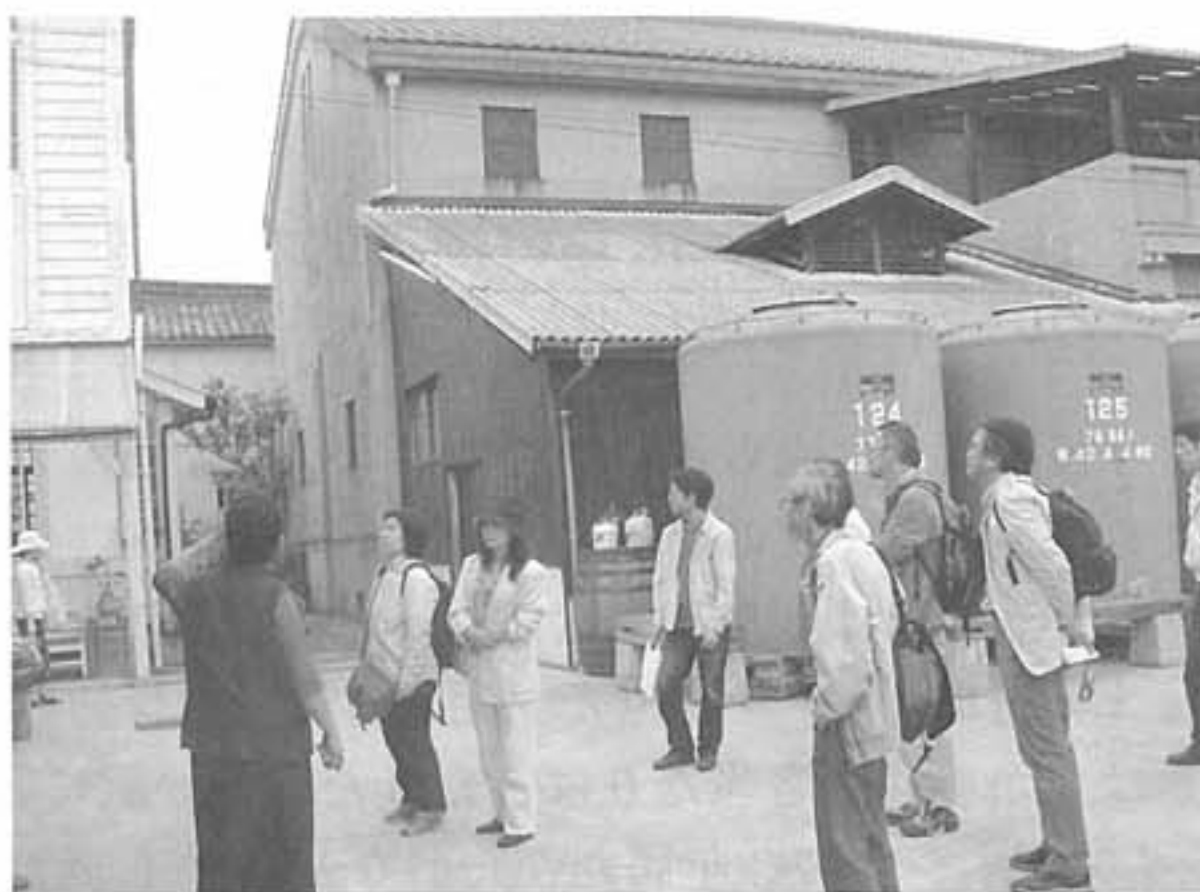
従って、やや血糖値の高い筆者としては、なかなか運動する機会が無いので、参加していると説明している。この説明には素直に納得する。物は言いようだ。

このテクテクとは、国土交通省の大竹さん（現在は岐阜市助役）を中心に、都市再生機構、役所、都市・建築関係コンサル、どこかでなんとなく知った人、その友人の友人などが参加している。従って、決して「専門家集団」ではない。半数は都市計画や建築とは無関係の人であろう。

毎月一回、街歩きを実施している。東京内外で参加し易いときは15-20人程度。少ないときでも5-10人程度が「テクテク」している。おそらく15年以上の歴史があるだろう。既に本も出した。筆者から見ると建築史家「藤森さんの建築探偵団」に、次ぐ老舗だとも思う。

ところで、以前から筆者が西条にいる間に、酒蔵の街・西条を中心に、町並みをテクテクと歩こうという話があった。そして筆者の西条在住2年目の、この2005年5月14・15日の土曜日に「西条テクテク」が実施された。土曜日の昼に、JR西条駅に集合。結局、7人が参加した。そのうち5人はわざわざ飛行機で東京から来てくれた方である。

あとはリーダー役の大竹さんは九州から、農林水産省の研究所の参加者は福山から電車で駆けつけて参加してくれた。土曜日は、酒蔵地区と広島大学を歩き、夜は「美酒鍋」で懇親会を行なった。



＜西条の8つの酒蔵の一つ、賀茂泉で前垣社長夫人から説明を聞く、テクテク・グループ。＞



美酒鍋とは、もともとは酒蔵での杜氏さんの料理である。鶏肉、砂肝、豚肉、野菜に酒とコショウのみで味付けを行なう。杜氏さんは農村から酒の仕込みを行う冬の間、半年ほど出稼ぎで西条に来る。

酒蔵の職場は、床が濡れている。つまり「びしょびしょ」だ。だからこの料理の当初の呼び名は「びしょナベ」であった。しかし、びしょびしょの鍋では響きが悪い。7・8年前から始まった「西条・酒祭り」など外部の人に地元料理として提供するに従い、いつしか「美酒鍋」となり定着してきた。

皆が、使い、同じ理解をすれば、言葉は社会に認知される。ワメナ地域の「メラ」、最近の「お茶する」「コレクティブ住宅」と同じだ。田舎からこの料理の材料、つまり鳥や野菜などの現物を持ってきて料理した時代もあったそうだ。

なにはともあれ、スープなどの下味も使わない。比較的安価に入手できる食材だ。その割るには「意外と美味しい」。これは筆者もそう感じたが、外部からの訪問者の平均的コメントでもある。折角なので、以下に、筆者の西条居住初期からの友人、賀茂輝酒造（財満ファミリー）から頂いたレシピを照会する。

#### <美酒鍋>

- ①サラダ油でニンニクを炒め、豚バラを入れる。鶏肉（＋砂肝）を加える。
- ②野菜、コンニャク、キノコを並べる。
- ③お酒をたっぷり入れる。塩、胡椒で味付けを行なう。
- ④味見して酒、塩コショウを調整して出来上がり。

## 2. 西条、宮島、広島の標準的な視察ルートを参考に

今後、西条に来られるかたの参考に、今回のテクテク・グループの街歩きルートを紹介する。やや行き当たりばったり方式であったので、ここでは「実施ルート」を載せた。元来、筆者の行動様式は、かなり行き当たりばったりだ。言い訳に、「インドネシアに3年居たから」などと、インドネシア文化のせいになっている。が、本当は筆者の性格に根ざすものである。

幸い、日本社会では珍しく、テクテクでは行き当たりばったり方式を受け入れる文化がある。そうした土壌が形成されれている。そこで、今回も心置きなく、当初計画を基本に、柔軟に対応することができた。今回の記事のメインテーマとなった「学生コレクティブ」も当初計画にはなかった。また被爆建物保存・袋町小学校訪問も、なかった。大体、広島の案内を助けてもらった昔の公団時代の友人、青葉さんも宮島で思いついて午後からの参加を突然、お願いしたくらいだ。

昔の仲間は有難い。幸い時間が空いていたので来てくれた。青葉さんは、10数年前に公団を辞めてUターンし、広島でコンサルタントの仕事をしている。2年前に広島に来たときは、この青葉さんと1973-75年の建設省出向時代に一緒だった、高東さん（現広島市都市計画局長）の2人しか知っている人は居なかった。

そうしたプライベートなことはともかく、テクテク瀬戸内企画<西条＋宮島＋広島>の実施プログラムを以下、紹介する。

2005年5月14日（土）

瀬戸内の小都市を訪ねて「山陽道・酒蔵のまち西条」

集合：JR西日本・山陽本線／西条駅改札外 13：00

- ①旧山陽道・西条酒蔵地区視察→駅前区画整理地区→賀茂鶴→酒泉館（賀茂泉の酒喫茶。藍染教室も併設）→中国新聞販売店・鈴木宅2階（地元長老が毎朝集まる場所。戦前から続いている。）で休憩。パワーポイントによる西条・東広島の説明
- ②西条・大学線ブルーバール周辺開発（バス）→公民館・市役所→西条中央（面的区画整理）→大学→学生コレクティブ3LDK（武田さん＋2人）
- ③広島大学工学部（横堀研究室）→中央図書館→文・法・経学部→下見学生街（地区計画）
- ④大学バス停→懇親会（2次会）：ふく政（店主が知人。美酒鍋を中心に食事）→時間が無かったので、夕食後9時頃、勝手に賀茂輝酒造へ（円座・わろうだ：3年前に精米工場を改築した酒蔵第一号の喫茶店）→我が家である賃貸マンション（3LDK70㎡、賀茂輝から徒歩5分。西条駅からも7分）で3次会→23時ごろ解散（広島へ帰る人、西条に泊まる人など）

2005年5月15日（日）

「世界遺産・厳島神社と原爆ドームなど」

集合：JR西日本・山陽本線／広島駅1番線ホーム先頭 AM8：50

- ①宮島地区視察→フェリー乗船、宮島着→厳島神社→ギャラリー宮郷（古民家喫茶展）→港：広電宮島口→（広島電鉄で広島へ）→金座街パルコ（30年かかった法定組合施行再開発事業）→お好み焼き村で昼食



②袋町小学校（被災建物保存）・市民交流プラザ→広島平和公園地（記念館）→原爆ドーム→アストラムライン地下駅→（アストラムライン2駅乗車）→城北下車  
 ④基町高校（原広司設計）→基町高層住宅団地（4000戸。40年前に大高事務所の設計。都市計画公園を変更して河川敷原爆スラム街の居住者を住宅地区改良法の事業で収容。現在、高齢化、店舗の空家、外国人増加など他地区と同様の問題を抱えている）→中央公園（戦災復興の都市計画公園）→専門店街ばせーら・バスセンター・そごうの複合施設（今や、広島を中心地区）→専門店街屋上のヴェトナム・レストランで夕食→18時ころ解散。（多くは、バスセンターから飛行場へ向かう）

ここで終了

### 3. 日本では珍しい、「学生コレクティブ（シェアリング居住）」の事例

わが研究室の卒論生（つまり4年生）である奈良県出身の武田さんという女性が、学生コレクティブをしていることは、前から聞いていた。テクテク・グループを大学に案内する直前の西条旧市街で思い出した。研究室視察の前に、このコレクティブを見てもらおう。筆者にとってもよい機会だ。早速、携帯で武田さんに電話した。

広島に来る前は、携帯電話不携帯派であった。なんだかワイフや勤務先に管理されているようでいやだったのだ。しかし、今やその便利さの恩恵に浴し切っている。大体、学生はほぼ100%持っている。だから、携帯なしには生活できない。まあ、時代の流れだろう。

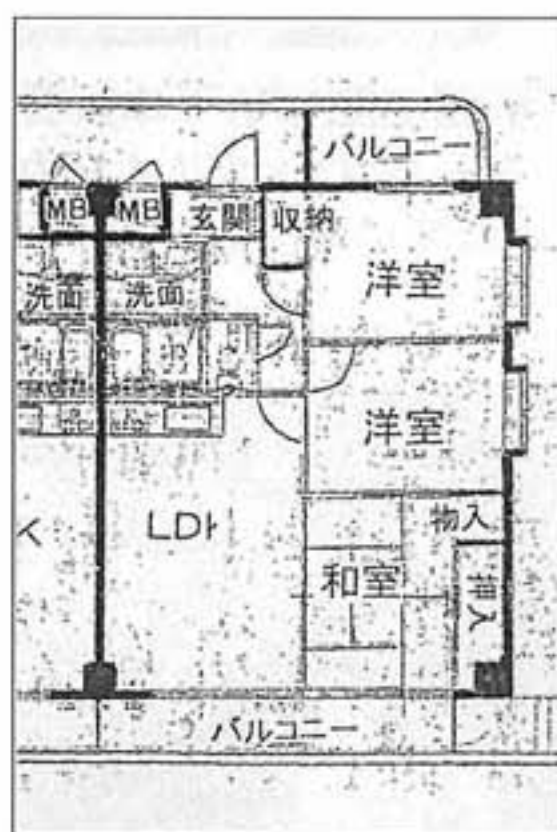
武田さんの住む、アンビエンテという賃貸マン



＜学生コレクティブ（ルーム・シェアリング）が3組いるという家族用賃貸アパートの位置。建物の周囲には植栽は無く、駐車スペースのみ。＞



＜学生コレクティブを实践している、筆者の研究室の学生、武田さんの3LDKの入口。上の人形から家族用住戸だということがわかる。＞



＜シェアリングしている住戸の間取り。北が男性、中也男性、南が女性（武田さん）となっている。＞

ションは、家族用にできている。3階建て、3LDK、1棟24世帯という構成だ。それが2棟あった。大学から徒歩で10分程度か。武田さんは原付バイク派である。

肝心の共同生活者は、女性（武田さん）一人と男性2人である。66000円の家賃を間取りの差をつけ分担している。図面からわかるように、住戸そのものは東端だ。部屋は南（武田さん）、中央（清潔好きの男性）、北（普通の男性）の3人でシェアしている。

居間、台所は勿論共同利用だ。南は居住条件が良いので23500円。中央は居住条件がやや劣るので19000円、北の部屋は19500円という負担割合になっている。結構、微妙だが、心配りが感じられる。

アメリカでは、後で紹介するようにルーム・シェアは普通だ。日本では、一般に共同居住を認めている賃貸アパートは少ない。家主がシェアリングを嫌がる。なぜだろうか。責任の所在が曖昧になるからか。揉め事が起こり易いからか。人口密度が上がるので汚れたり損傷するからか。よく判らないが、最初の責任問題が大きそうだ。





＜武田さんの6畳強の部屋。和室。座り机。本は畳に並べている。タマタマかもしれないがアメリカの女子学生よりは良く整理されている。＞



＜居間・台所の、台所部分に立つ武田さん。仲間が持ち込んだとのことだが、やたらと酒ビンが並んでいた。＞



＜コレクティブ居住の中心となる「共同居間」でのテクテク・グループの記念撮影。仲間が持ち込んだという、酒ビンがやたらと並んでいた。右から3人目が住人の武田さん。＞

このアンビエントでは正式に家主がOKしている。隠れシェアリングではない。隠れシェアリングの事例も少しはあるようだ。

このアンビエント住宅には、3組ほどの「学生コレクティブ」の事例がある。ここでの賃貸の契約者名義人は、武田さんのお父さんだ。テクテクメンバーからは良く混合シェアをお父さんが許したな、という声も上がった。混合とはテニスの混合ダブルスと同様に「男女混合」という意味である。

テクテクのグループは大変関心を持って、部屋を見せてもらったり、生活上の話を彼女に聞いていた。男女の混じったルームシェアリングは考えられないと繰り返しつぶやいている方も居られた。

それぞれ彼氏や彼女が来たときは、暗黙の了解で、席を外す。彼氏・彼女は、勿論、昔中学で習ったHeやSheではない。現代的用語の意味だ。ご存知のように、極めて親密な関係にある場合を指している。

つまり、同居者の恋人が来たときは、他の者はマンションの外に出る。おそらく大学へ行くか、友人宅にでも行くのだろう。最近では、そうしたことが面倒なので、そうした関係の友人は呼ばなくなってきたそうだ。彼氏や彼女とは、必要に応じて外で会うということだろうか。

ここでのシェアリング・共同居住では「成文化されたルール」は無い。共用部分（居間や台所）は、3人の中できれい好きな人（ここでは中間の部屋の男性）を中心に、時々掃除する。食事は、まったく別個・独立的に行う。冷蔵庫は卒業した友人が置いてったものもあり2台ある。勿論共同使用だが、中身は個別だ。小谷部先生の推奨する北欧・炊事協力型コレクティブとは程遠い。個別独立だからうまく行っているのかもしれない。

電気や水道などの光熱費は、先に一人1万円徴収して一括して支払う。今のところその範囲でなんとかなっているという。

南側の武田さんの居る洋室と中央の、男性の居る和室の間仕切りは、襖だ。家具など置いてはいるものの、開けないことが不文律だ。アメリカではこうした家族用の家でも各部屋ごとに鍵が付いている場合が多い。しかしこの部屋には鍵は無い。日本では一般的だ。



洗濯機も共同利用だ。時間帯や使用ルールなどを決めなくても、なんとなく空いている時に使う。一緒に洗濯をすることはないようだ。テクテク・グループの小父さん、小母さんとしては「女性の下着を乾すときは」などを質問していた。

回答は忘れたが、我々の年代の女性が気にするほどは武田さんも、男性の同居者も気にしていない感じだ。ゼネレーション差による感性の違いだ。

風呂も、最初は「女子入浴中」などの既製品の看板を掛けていた。が、いまは使っていない。大体、誰が風呂を使っているか看板が無くてもわかるという。筆者などは、わかっているが故に、わざと間違えてドアを開けてしまいそうだ。と、武田さんに冗談で言ったら、「先生、それ以上はセクハラですよ」と注意された。

現在、筆者の研究室には14人の学生がいる。4年6人、M1・5人、M2・3人だ。その内、留学生は、スリランカ（M2）、中国（M1）、韓国（4年）の3人で全員が女性だ。武田さんを加えて4人／14人が女性ということになる。これはアクマデモ、結果である。女性を優先的に選択したわけでないことを、強く強調しておきたい。

留学生はそうでもないが、武田さんは、時々、「先生、それ以上は・・・」と注意してくれるので助かっている。

話を戻す。居間には、多くのアルコール瓶が並んでいた。それぞれの友人が来たときに持ってきてくれたという。彼氏・彼女の来訪とは別に、「普通の共通の友人」はよく来て、楽しく飲み会を行っている雰囲気であった。

すぐ北側には、広島大学のガガラ宿舎と呼ばれる中層の職員住宅がある。2年前、この宿舎も下見しに来た。確かに周りには山や緑も多く、自然環境は良い。しかし大学への道沿いには、自然以外何もない。東京・千駄木で生まれ育った筆者としては、瞬間にとっても住めないと思った。

それに「ガガラ」という名称が気になった。未だにその意味や起源はわからない。2年前にここに来て、おやっと感じた名称に「デオデオ」というのもある。これは電気の量販店の名称である。変な名前だ。有名な店だから、西の方の方はご存知だろう。「ガガラ」も「デオデオ」ももう慣れた。夫婦関係も仕事仲間との関係も人間関係は

「慣れ」（+諦めも入るだろう）があるからやっていける。

閑話休題、アビエンテ住宅の周辺には、官舎以外にも障害者施設などの施設をはじめ、戸建住宅も多い。そこそこ宅地化が進んでいる。しかしなぜか、スーパーやコンビニなどの買い物する店がない。大学の生協に行くか、歩いて15分ほどのところまで出かける必要がある。大学敷地をめぐるバス停のひとつが最寄バス停になる。ガガラ口という変な名前のバス停だ。

#### 4. アメリカの学生のシェアリング居住

学生生活という話題に関連して、アメリカの学生の話しをしたい。もう17年前（1988年）になるがミシガン州立大学に一学期間の契約で勤めていた。呼んでくれた同僚のロジャー・ハムリンという教授以外にも、学生を含めて色々人の世話になった。

まず、今回の話題のハウス・シェアリングである。アメリカのあるいは少なくとも、中西部ミシガン大学では極めて普通の事である。いくつかのシェアリング・アパートを見せてもらった。女性も含めて、ほとんどが抵抗無く、部屋を見せてくれた。かなり散らかっていて、汚れっぱなしでも平気だ。その辺は日本人と異なる。

特に、学生で世話になったのは、マウラ・ハーレーという女子学生である。日本に関心があり、前年に行われた「日本プログラム」のメンバーの一人であった。Japan Programmeというのは、学生20人程が1ヶ月、社会人は2週間、日本に来て日本の住宅・都市計事情を学ぶというミシガン大学・都市計画学部の夏休み特別プログラムだ。

その時、筆者は都市公団（現・都市機構）に居た。外国関係の訪問者があると何かと筆者のところに来る。そこで、色々とお手伝いをした。

日本へ来る日本プログラムは費用も掛かる。毎年実施できない。その代わりに筆者が1学期間、アメリカに客員教授の形で来て、講義で日本やアジアの都市・住宅事情を紹介して欲しいということになった。これが筆者がミシガン大学に招請されて理由である。

マウラには、自動車の免許、登録手続き、保険などで世話になった。615ドルでベトナム人か





く色々手伝ってくれた女学生マウラさんのアパート。3LDKを、3人でシェアリングしている。手前のクルマは、筆者が購入した例のビューイック・パークアベニュー>



くちょっとボーイッシュなマウラさん。日本への関心は強かった。数年後に再度、来日して京都でNPO的活動をしていたが、会えなかった。>

ら購入した中古自動車を未登録、未保険、無免許で学外に出てしまい警察につかまり簡易裁判を受けた。この話は、1991年12月（その2）に詳しく紹介しているので興味があるか方は参照されたい。

ところで、このマウラが3人でシェアしているアパートでのパーティにも招待された。男女混合シェアだったかどうかは忘れた。スパゲッティ・パーティであった。台所の鍋に茹でたままのスパゲッティが入れてある。その横には紙のコップと紙のお皿がスーパーで買ってきたままで置いてある。

各自、自分で鍋からスパゲッティを取り分けて食べる。セルフ・サービスだ。このスタイルは極めて普通だ。マウラの友人も居た。同居人も、そのパーティに居たかどうかはわからない。勿論、特段、乾杯の音頭も無い。ましてや口火きりの挨拶も無い。

日本は集団行動を大切にするから、ちょっとした集まりでも、最低「乾杯の音頭」がある。学生の集まりでも先生がいたら、（内心どう思っているかはともかく）先生に挨拶と乾杯の音頭を頼む。始まりと終わり（手締め）をはっきりさせたがる。国際的に見ると、こうした慣習は日本独自の文化だ。

日本以外は、概ね、勝手に来て、勝手に飲み始めて、勝手に帰る。特に飲み物は食事や他の人が来るのを待つ間の時間つぶしだから、もちろん乾杯なしで飲み始める。その点、アメリカは、あっさりしたものだ。

なんで、アメリカ人学生はシェアリングが普通なのだろう。考えた。日本人は協調性が重視される。学校や職場では、仕事・食事と共同歩調をとる場合が多い。その結果、せめて自宅は一人でいたい。シェアリングするとどうしても気を使う。疲れる。だからシェアリングはしたくない。

その点、アメリカ人は個人主義だ。学校でも職場でも、個人をベースに行動する。人は人だ。良くも悪くも自分の領域が侵されない限り干渉しない。自宅に帰りシェアリングしても、干渉しない。居間で一人がパーティをやっている、同居者との付き合いで顔を出すなどはしないだろう。主催者も同居者なのに出ない。手伝ってくれない。そんなことは思わないだろう。だから、シェアリングにも抵抗が無い。そんな気がする。

その数年後、マウラ・ハーレイさんは日本の京都に来て、何かのボランティア活動をしていた。一度、会おうと電話で約束したが、そのままになってしまった。日本文化が専門だったのかもしれないが忘れた。とにかく日本語はうまかった。文



くマウラさんの部屋。散らかし放題だが、気にせずに見せてくれた。他の女子学生もあまり気にしない。>



ハーリー・モラー  
MAURA HURLEY  
日本のしゅしんどうもあり難う！  
656 ABBOTT RD/EAST LANSING, MI 4  
351-7227

＜マウラさんが来客者ノートに残した日本語のメモ。  
日本式に苗字・名前の順に書いてある。＞

字だって筆者よりきれいだ。ミシガン大学時代に  
我が家に残した訪問者ノートに残された日本語の  
メモを、ここに載せる。

## 5. 家を見せたがらない日本人、喜んで 見せたがるアメリカ人。

折角の機会なので、ミシガン大学での我が家も  
紹介させて頂く。わが宿舎は、学内にあったチェ  
リーレインと呼ばれる教職員用のアパートであ  
る。

中廊下型2階建てフラットで、約50m<sup>2</sup>の1LDK  
だった。着任して、1ヶ月程後に、ハウス・ウォ  
ーミング・パーティを開いた。ハウス・ウォーミ  
ング・パーティとは、引越後の家のお披露めパー  
ティのことである。挨拶がわりに自宅でパーティ  
をする。それが、アメリカ人のライフスタイル  
だ。

その点、日本人は「家が狭いから」という理由  
か、はてまた「掃除をしていないので」など、な  
んやかやの理由をつけて、他人を家に呼びたがら  
ない。結局「日本人の一般的居住状況」を見ても  
らうため、つい我が家に連れて来てしまう。



＜ミシガン大学の我が家での引越し御披露目パー  
ティ。左からロジャー教授、アリス・ショーベ、  
筆者、右端が長島安子さん。＞

友人や他人に頼むと、断られてり、ピカピカに  
掃除していかにも疲れた感じだったり、大ご馳走  
を用意してくれたりする。ちょっと見せてもら  
えばよいのだが、構えすぎるのだ。

あまりに外国人を含めて友人を家に呼びすぎ  
て、最近ではワイフに拒否されている。最近では体調  
に問題あるせいだが、要は呼びすぎらしい。

それには理由がある。特に、都市計画や建築を  
専門とする外国人の場合は、自分の立場で考える。  
海外に行くと家の中も見たい。そこで日本でも住  
宅・都市関係の外国人には家の中も見せて挙げた  
くなる。

しかし知人・友人でも頼むのが面倒だ。浦安案  
内のついでに、ワイフに事前に知らせずに突然、  
連れてくる。もうインドネシアから帰ってからつ  
づいているので20年以上だ。延べでは200人は越  
えるだろう。そうした状態がつづいた。

ワイフがストライキを起こすのはわからないで  
はない。しかし、「散らかっているかどうか」を  
チェックしに来るわけではない。「狭いところに  
住んでいる」ことを正直に見せることも、日本の  
理解の為には重要である。とはいっても、平均的  
日本人奥さんである筆者のワイフとしては、何で  
我が家ばかり、多くの人に見せなければ成らない  
のか理解できない。

テレビで、アポ無しで飛び込んで、泊めてもら  
う番組がある。10数軒頼んでも泊めてもらえない  
場面もあった。家に関しては、日本人は結構、閉  
鎖的だ。しかし一歩、受け入れるとやり過ぎるぐ  
らい歓待する。中間が無い。

その点、アメリカ人は自分の家を見せるのが好  
きだ。見学したりする機会があると、大体は、全  
ての部屋をわざわざ案内してくれる。泊まる場合  
は、風呂やトイレの位置を教えると同時に、「自  
分の家のつもりで泊まってくれ。何でも自由に使  
ってくれ」というのが、常套句だ。何回かそうした  
言われ方をした。

30年以上前だが、イギリスのニューキャッスル  
で、バイカー・ニュータウンという再開発の団地  
を一人で見学していた。すると年配の叔母さんが、  
日本から来たならば家の中も見たいだろうと、廊  
下で声を掛けてくれた。オランダのデルフトでも、  
子供が次から次へと知り合いの家に連れてって  
くれる。多くの住戸を見学した。親切さもあるが、



どうも自分の家を見てもらって満足している感じだ。日本人とどこか感性が違う。

## 6. 途上国より緊張するアメリカの安全の話もちょっと

ハウス・ウォーミング・パーティーの話に戻す。日本との比較で、アメリカの話しを話題にした場合、「安全の問題」は避けて通れない。通常、ハウス・ウォーミング・パーティーでは、友人を招くとともに向こう3軒両隣にも声をかける。ミシガン大学の宿舎では、主に大学での知り合いを中心に招いたが、隣の中国人も喜んで来てくれた。まあ、日本での引越直後の近所へのタオルを配り挨拶にあたる。

アメリカでは挨拶がわりにパーティーを開く。互いに、招き、招かれることが友人関係であることの確認行為であるようだ。従って、どのような食べものを出すか、招待された場合どのようなものを持参するか、などはあまり問題ではない。日本人は、何を出すか、何を持っていくか、を考えすぎる。考えすぎて疲れるので、自宅パーティーは避けたがる。

アメリカで聞いた話だが、お金のない学生などは、ただ生野菜を切り刻んで置いておくだけのパーティーもあるという。イギリス文化を継承するアメリカ人も、失礼ながら、舌が肥えているとはいいがたい。良く解釈すれば、食事の質に拘らないで生きて行ける、という幸せな人種とも言える。その裏返しで、都市や住宅の景観に拘るのだろうか。

アメリカ人と話していて、どこまで粗末な食べもので、パーティーができるかということが話題になったことがある。ただ石を置いておくだけでも可能だという意見もあった。

それは半分冗談としても人間関係から取り残されないために「パーティーによる人間関係の再確認行為」は「食べ物の質は問わず」重要な社会的活動のようだ。

ともかく相互に招待し合うことが大切なのだ。ミシガン大学に着任した直後の筆者も、さっそくハウス・ウォーミング・パーティー開いた。周りの小社会に入れて貰う必要を感じたからである。

来日後に知り合った先生や学生らの友人達、大

学の教員室での隣室の男、なんだかんだと生活のセッティングまでに知り合っていた知人を招いた。単身であつたし、日本レベルでのもてなしも不要であることは知っていた。それでも、さすがに生野菜のみという勇氣はない。そこで当時、丁度学生としてミシガン大学のランドスケープ（造園）学部留学していた長島キャサリーヌ夫妻の娘さん、安子さんに手伝いをお願いした。

渡米前に、たまたまキャサリーヌさんと話す機会があつた。その時、彼女の娘さんも同時期に同じ大学に行くことが分かった。ちょっと失礼な言い方だが「飛んでいる火に夏の虫」である。早速、キャサリーヌさん、つまり彼女のお母さんに、娘さんを日本で紹介してもらっていた。

このハウス・ウォーミング・パーティーでは、早速、準備から後片付けまで、手伝ってもらった。同僚のロジャー・ハムリン教授によると、学内の寮（ドメトリー）に住んでいる場合でも、女子学生であれば8時以降は車で送るようにと注意された。日本では考えられない。広島大学では、女の子でも平気で夜中まで作業をしている。一人で自転車やバイク（原付）で暗い夜道を帰っている。アメリカのミシガン大学では、大学の中にある宿舎に帰る場合でも、暗くなるとレイプや強盗の危険があるという。

こういったこともあつた。650ドルの中古の車を購入し、免許や車の登録、保険手続き前であつたが、学内なら地外法権であろうと車の試し運転をしていた。まだ車の調子に慣れていなかったのので何らかの理由でバッテリーが宿舎の近くで上がってしまった。

暗くはなっていたが、せいぜい夕方の7時頃である。ブースター・ケーブルで繋いでエンジンを掛けようと、通り掛かる車を止めようとした。が、誰も止まってくれない。数日前の日曜日、車もなくいくところもないので教会にいった。単身であつたし外国人でもあることからか皆、声を掛けてくれた。アメリカ人の親切さを感じていた矢先である。これが移民社会での相互助け合いかと感動した。

従って、エンジン起動に、当然、誰かが助けてくれると思った。しかし、夕方がいけなかったようだ。既に、危険な時間帯なのである。結局、車はそのままにして翌日の昼間に同じブロックに駐



車していた隣人に依頼し来てもらった。

あとで友人にその話をすると、暗い時に知らない人の為になど、自分でも危なくて止らないという。つまり強盗である可能性があるからだいう。昼間は多くの通りかかりの眼があるでの強盗の可能性は低いということであろう。人の眼がある昼間の親切的な、アメリカ人と、人の目がないので危険性の高い状態でのアメリカ人とでは、人種が異

なるのではないかと思われるほど、親切度合いが違うのだ。

大学内であれが、誰でも入れる。これはミシガン大学だが、広島大学も、日本の何処の大学も同じだろう。従って、大学の構内とはいえ市街地と同様の注意が必要だ、ということだろう。

広島大学教授（工学研究科・国際協力研究科）



補償コンサルタントとして、38年、さまざまな補償案件を経験して参りました。

「まちの賑わいを取り戻したい。」「安心して住み続けられるまちでありたい。」「人が集える空間を作りたい。」まちづくりに寄せられるさまざまな思い。

これからも補償コンサルタントとして、まちづくりをお手伝いして参ります。



まちづくり  
みちづくり  
ゆめづくり

## 全7部門登録

総合補償コンサルタント  
社団法人日本補償コンサルタント協会会員  
社団法人再開発コーディネーター協会会員

## 株式会社 新都

本社 〒170-0014 東京都豊島区池袋1-7-14 天心堂ビル  
TEL 03-3982-9386 FAX 03-3987-3650  
支店 神奈川支店・函館支店・埼玉支店